

日本共産党第二九回党大会決議案(案) 骨子

第一章 国際情勢と改定綱領の生命力

(1) 深刻な逆流に抗して

- ① ロシアのウクライナ侵略——「国連憲章を守れ」での団結こそ解決の道
- ② イスラエルのガザ攻撃の中止、即時停戦の合意を
- ③ 軍事対軍事の悪循環に反対し、包摂的な平和の枠組みを

(2) 世界史の本流の発展——三つの分野で

- ① 核兵器禁止条約の発効がもたらした変化——日本の進路が問われている
- ② 平和の地域協力の流れの前進と、日本共産党の「外交ビジョン」
- ③ 人権問題の前進、奴隷制と植民地支配の歴史的責任を明らかにする流れ
- ④ 公正な世界を求める「グローバルサウス」に注目し、連携する

(3) 中国にかかわる綱領上の規定の見直しを踏まえて——この四年間のとりくみ

- ① 中国とどう向き合うか——前大会で確認した諸点をふまえて
- ② 「日中両国関係の前進のための提言」について

(4) 野党外交と国際連帯——ユーラシア大陸の全体に

- ① アジア政党国際会議——総会宣言に「ブロック政治を回避」が明記
- ② ヨーロッパ左翼・進歩諸党との新たな交流と連帯

第二章 自民党政治のゆきづまりと日本共産党の任務

(5) 自公政権と国民との矛盾が極限に達している

(6) 戦争の準備でなく、平和の準備を——「アメリカいいなり」からの脱却を

- ① アメリカいいなりの「戦争国家づくり」を許さない
- ② タガがはずれた「米軍基地国家」の異常——沖縄との連帯を訴える
- ③ 9条改憲を許さない——揺るぎない国民多数派をつくろう
- ④ 異常な対米従属をどうやって打破していくか——「二重の取り組み」を貫く

(7) 日本経済再生の道——「財界中心」の政治の転換を

- ① 「失われた三〇年」——自民党政治がもたらした経済の停滞
- ② 政治の責任で賃上げと待遇改善のための総合的改革にとりくむ
- ③ 格差をただし暮らしを守る税・財政の改革をすすめる
- ④ 気候危機打開・原発ゼロ、食料とエネルギー自給率向上——持続可能な経済への改

革をすすめる

- (8) 人権後進国から先進国に——政治の責任が問われている
 - ① ジェンダー平等実現へ——運動と連帯し、政府を追いつめよう
 - ② 子どもの権利が保障される日本に——子どもの権利条約の具体化・実施を
 - ③ あらゆる分野で人権が尊重をされる日本を
- (9) 国民運動と統一戦線の発展のために
 - ① 各分野の国民運動の新しい発展の流れ
 - ② 「市民と野党の共闘」の到達点と展望
- (10) 総選挙と地方選挙をたたかう方針について
 - ① 総選挙の歴史的意義と目標について
 - ② どういう政治姿勢でたたかうか——二つの姿勢を堅持して
 - ③ 総選挙躍進への独自の取り組み——「三つの突破点」で新しいたたかいに挑戦
 - ④ 地方選挙での前進と世代的継承のとりくみ

第三章 党建設——到達と今後の方針

- (11) 多数者革命と日本共産党の役割
 - ① 不屈性と先見性を発揮し、革命の事業に多数者を結集する
 - ② 民主集中制の組織原則を堅持し、発展させる
- (12) 第二八回党大会・第二決議(党建設)にもとづく党づくりの到達点
- (13) 前大会以降の教訓をふまえた党建設の強化方向
 - ① 党員拡大の日常化——前大会以降の独自追求の教訓を生かして
 - ② 世代的継承を党づくりの目標・実践の中軸にすえ、全党あげてとりくもう
 - ③ 今日における「しんぶん赤旗」中心の党活動の生命力と課題
 - ④ 綱領、規約、党史、科学的社会主義の一大学習運動にとりくもう
 - ⑤ 週一回の支部会議を確立しよう
 - ⑥ 党費を根幹とする党財政の確立を
 - ⑦ 三つのスローガンで、党機関の活動強化をはかろう

第四章 世界資本主義の矛盾と科学的社会主義

- (14) 世界資本主義の矛盾の深化と社会主義への期待の広がり
——空前の規模での格差拡大

—— 気候危機の深刻化

—— 社会主義への期待

(15) 「人間の自由」こそ社会主義・共産主義の目的であり特質

—— 「利潤第一主義」からの自由

—— 人間の自由で全面的な発展

—— 発達した資本主義国の巨大な可能性

第五章 一世紀の歴史に学び、新たな一世紀に向かおう

(16) 党史『日本共産党の百年』編集の意義

(17) 党史を貫く三つの特質——次の一〇〇年でさらに発展を

(18) 迫害や攻撃とたたかい、自らを鍛え、成長をかちとった歴史

(19) 党の歴史的発展段階と党建設の意義